

6 3 6 1 - 8 0 0
平成 1 9 年 1 0 月 2 5 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 1 9 年度病害虫発生予報第 7 号について
平成 1 9 年度病害虫発生予報第 7 号を発表したので送付します。

平成 1 9 年度病害虫発生予報第 7 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
施設野菜全般	アブラムシ類	やや多	2
	ハスモンヨトウ	並	2
	タバココナジラミ類 (タバココナジラミ、イオタイフ Q 及びシルバリーコナジラミ)	やや多	2
冬春キュウリ	べと病	並	3
	うどんこ病	やや多	3
	褐斑病	やや多	3
	ミナミキイロアザミウマ	並	3
冬春ピーマン	斑点病	並	4
	うどんこ病	並	4
	ミナミキイロアザミウマ	並	4
冬春トマト	葉かび病	並	4
	トマト黄化葉巻病 (TYLCV)	前年～前々年 と同程度	4
	タバココナジラミ類	やや多	5
冬春イチゴ	うどんこ病	やや多	5
	炭疽病	-	5
	ハダニ類	やや多	6
カンキツ類	ミカンハダニ	やや多	6
チャ	カンザワハダニ	やや多	6

病害虫発生予察注意報・防除情報を発表

冬春キュウリは定植～生育初期、冬春ピーマンは定植直後、冬春トマトは生育初期、冬春イチゴ定植～生育初期、温州みかんは収穫期、茶は秋芽生育期であった。

11月の気象予報

天気は数日の周期で変わり、平年に比べて曇りや雨の日が多い、気温は平年より高いと予想されています。(1か月予報 鹿児島地方気象台 10 / 19 発表)

発生予報の根拠および防除対策

施設野菜全般

1 アブラムシ類 (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 冬春イチゴでの発生面積率 57.1% (平年 25.5%) は平年より多、寄生株率 4.4% (平年 3.3%) は平年よりやや多である。
- 2) 冬春キュウリ、冬春ピーマンの巡回調査では発生未確認である (平年発生面積率 キュウリ 0.8% : ピーマン 1.0%)。
- 3) 黄色水盤での誘殺数 (佐土原町) は、平年よりやや多く推移している。

[防除上の注意]

- 1) キュウリやピーマン等多くの作物のウイルス病を媒介するので、有翅虫の飛来防止に努めるとともに、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を定期的に行う。

2 ハスモンヨトウ (並)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では、冬春キュウリ、冬春ピーマン、冬春トマト及び冬春イチゴで食害の発生を確認している。
- 2) フェロモントラップの誘殺状況は、都城市及び西都市で9月中旬及び10月上旬に一時的に多くなったが現在は平年並となっている。また、宮崎市佐土原町 (農試内) では8月に次ぐピークを迎えている。(誘殺数は平年並み)

[防除上の注意]

- 1) 幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、早期発見に努め若令幼虫期に防除する。
- 2) 施設内で発生すると、天敵類が少ないことや施設内気温が高いことから、増殖しやすくなるので注意が必要である。

3 タバココナジラミ類 (タバコナジラミ、タバコナジラミ、タバコナジラミ) (やや多)

平成19年度病害虫発生予察注意報第6号 (10月25日発表) 参照

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査における発生面積率は、冬春キュウリでは100% (平年 39.4%) で平年より多、冬春ピーマンでは61.5% (H18 : 38.5%、H17 : 58.3%) で前年より多く前々年と同程度である。
- 2) 10月中旬の冬春トマトでの発生面積率 55.6% (平年 23.3%) は平年より多く、本虫が媒介するトマト黄化葉巻病の発生も前年～前々年と同程度の発生となっている。(冬春トマトの項参照)
- 3) 向こう1ヶ月の天候は、気温は高いと予想されており本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられる。

[防除上の注意]

- 1) 施設開口部に防虫ネット等を設置して飛来防止に努める。
- 2) 発生を確認したら早めに防除する。なお、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。

冬春キュウリ

1 ベと病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では発生面積率14.3%(平年 8.3%)、発病葉率0.9(平年1.3)は、いずれも平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 湿度が高いときに激発しやすく、激発すると防除が困難となるので、予防散布に重点をおき発生が見られたら初期防除を徹底する。
- 2) 肥料切れや草勢の衰えは発生を助長するので、肥料切れしないように肥培管理に注意する。

2 うどんこ病 (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では発生面積率50.0%(平年22.8%)は平年より多、発病葉率2.5%(平年2.3%)は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 病勢が進展してからでは防除効果が低くなるので、発病を確認したら早めに防除する。
- 2) 耐性菌を生じやすいので、同一系統薬剤の連続散布を避ける。
- 3) 乾燥時に多発するので、ほ場が過乾燥にならないように管理に注意する。

3 褐斑病 (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では発生面積率28.6%(平年14.7%)は平年よりやや多、発病葉率1.0%(平年1.6%)は平年並みである。
- 2) 向こう1ヶ月の天候は、平年と比べて曇りや雨の日が多い、気温は高いと予想されており本病の発生に好適な条件が続くと考えられる。

[防除上の注意]

- 1) 多発してからの防除は困難なので、初期防除を徹底する。
- 2) 窒素質肥料の多用は発病を助長し、過繁茂になって通風を妨げるので適正な肥培管理に努める。
- 3) 摘除した発病葉はほ場外に持ち出し処分する。

4 ミナミキイロアザミウマ (並)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では2ほ場で発生が確認されたが、いずれも微発生であった。

[防除上の注意]

- 1) 多発してからは防除効果が低くなるので、低密度のうちに防除する。

冬春ピーマン

1 斑点病（並）

[予報の根拠]

1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である。(平年発生面積率 2.8%)

[防除上の注意]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、除湿に努める。
- 2) 病原菌が侵入した後の防除効果が低いので予防散布を行う。

2 うどんこ病（並）

[予報の根拠]

1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である。(平年発生面積率 4.0%)

[防除上の注意]

- 1) 乾燥した条件で発生しやすいので、乾燥させすぎないようにする。
- 2) 病勢が進展してからでは防除効果が低いので早期発見に努め、発病を確認したら早めに防除する。

3 ミナミキイロアザミウマ（並）

[予報の根拠]

1) 10月中旬の発生面積率15.4%(平年29.7)、10花当り寄生虫数0.6頭(平年0.6頭)はいずれも平年並である。

2) 向こう1ヶ月の天候は、気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な環境がつづくと考えられる。

[防除上の注意]

1) 10花当り寄生虫数が1頭から被害果が出始める。また多発してからでは防除効果が低くなるので、低密度の内に防除を徹底する。

冬春トマト

1 葉かび病（並）

[予報の根拠]

1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である。(平年発生面積率 1.4%)

[防除上の注意]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。
- 2) 発病初期の防除を徹底する。

2 トマト黄化葉巻病(TYLCV)（前年～前々年と同程度）

[予報の根拠]

1) 10月中旬の巡回調査では、発生面積率33.3%(H18 20.0% H17 33.4%)は前年～前々年と同程度、発病株率0.2%(H18 0.2%、H17 2.0%)は前年と同程度である。

2) 本病を媒介するタバココナジラミ類は平年よりやや多い発生となっている。

3) 向こう1ヶ月の天候は、気温は高いと予想されており、媒介虫の増殖に好適な条件が続くと考えられる。

[防除上の注意]

1) 生育初期に感染すると被害が激しく全滅する場合もあるので、発病株はすぐに抜き取り、速やかに埋没等処理を行う。

- 2) タバココナジラミ類（タバココナジラミ バイオタイプQ、シルバーリーフコナジラミ）によって媒介されるので、施設開口部には必ず目合い0.4mm以下の防虫ネットを設置して施設内への侵入を防止する。
- 3) 施設内には黄色粘着トラップ等を設置し、早期発見に努めるとともに、栽培期間中を通して防除を徹底し、本虫の密度を抑制する。
- 4) 施設内外の雑草はタバココナジラミ類の寄主となるので除草を徹底する。また、施設内では栽培目的以外の不要な作物や観葉植物等は栽培しない。

3 タバココナジラミ類（タバココナジラミ バイオタイプQ、シルバーリーフコナジラミ）（やや多）

平成19年度病害虫発生予察注意報第6号（10月25日発表）参照

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の冬春トマトでの発生面積率55.6%（平年23.3%）は平年より多、百葉当たり虫数2.4頭（平年1.0頭）は平年よりやや多である。
- 2) 向こう1ヶ月の天候は気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な環境がつづくと考えられる。

[防除上の注意]

- 1) 施設開口部に防虫ネット等を設置して飛来防止に努める。
- 2) 発生を確認したら早めに防除する。なお、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。

冬春イチゴ

1 うどんこ病（やや多）

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の発生面積率21.4%（平年11.1%）は平年よりやや多、発病葉率4.5%（平年1.0%）は平年より多である。

[防除上の注意]

- 1) 初め葉裏に発生しやすいので早期発見に努め、初期防除を徹底する。
- 2) 激しく発病すると防除効果が低くなるので、予防に重点をおき、発病後は散布間隔を短くするなど発病初期の防除を徹底する。
- 3) 発病果など被害部は伝染源になるので早めに取り除きほ場内に放置しない。

2 炭疽病

平成19年度病害虫防除情報第6号（10月25日発表）参照

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では発生面積率28.6%（平年5.8%）と平年より多い状況であるが、向う1ヶ月の長期予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本病の発生が続くと考えられる。

[防除上の注意]

- 1) 多湿にならないよう、ほ場の排水対策を十分行う。
- 2) 定植後に発病した株は、早期に除去し、新たな感染を防止する。
- 3) 親株床の発病残渣は翌年の伝染源になるのでほ場外に持ち出し適正に処分を行う。

3 ハダニ類 (やや多)

平成19年度病害虫発生予察注意報第7号(10月25日発表)参照

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の発生面積率85.7%(平成23.5%)は平成より多、寄生株率11.6%(平成5.3%)は平成よりやや多である。
- 2) 向こう1ヶ月の天候は気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な環境がつづくと考えられる。

[防除上の注意]

- 1) 収穫期に寄生数が増加してからの防除は困難なので、低密度時から防除を徹底する。
- 2) 株整理後の葉数が少なくなった時期に薬剤散布を行うと防除効果が高くなる。茎葉繁茂時には散布圧を強めて、葉裏に良くかかるように散布する。
- 3) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一薬剤・系統の薬剤の連用を避ける。

カンキツ類

1 ミカンハダニ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の発生面積率60.0%(平成44.2%)は平成よりやや多、寄生葉率4.1%(平成11.1%)は平成並である。

[防除上の注意]

- 1) 生息密度が高くなると防除効果が劣るので、寄生葉率30%、10葉当たり虫数5~10頭を目安に、増殖初期に防除を行う。
- 2) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一薬剤・系統の薬剤の連用を避ける。

チャ

1 カンザワハダニ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の発生面積率52.9%(平成29.6%)、寄生葉率3.4%(平成3.1%)はいずれも平成よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一薬剤・系統の薬剤の連用を避ける。

農薬散布時のドリフト対策について

- 1 ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払うことが必要です。
- 2 風の弱いときに、ノズルや散布方向、噴霧圧力などに注意して、適正な農薬散布を心がけましょう。
- 3 地域でよく話し合い、農薬の使用時期や農産物の栽培内容などを十分調整しましょう。
- 4 農薬の散布について疑問点がありましたら、病害虫防除・肥料検査センターもしくは最寄りの農業改良普及センターへお問い合わせください。

その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。
日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>
- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。
特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤（商品名、マリックス乳剤、粒剤等）は使用しないこと。
- 3 発生量（程度）の区分

多い	（高い）	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い	（やや高い）	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並		平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない	（やや低い）	平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない	（低い）	やや少ないの外側10%の度数の入る幅 （平年値は過去10年間の平均）
- 4 予察情報の種類

病虫害防除・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 2) 注意報・・・主要な病虫害の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 3) 警報・・・主要な病虫害の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病虫害がある時や、病虫害の発生様相が特異な時に発表する。
- 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病虫害の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病虫害防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を掲載しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病虫害防除・肥料検査センター 櫛間

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu-hiryo

@pref.miyazaki.lg.jp